

## 「2020年度 中期経営計画」(2020年4月～2023年3月)

株式会社三井 E&S ホールディングス(社長:岡 良一)は、2020年度から2022年度までの経営計画「2020年度 中期経営計画」(2020中計)を策定しました。

### 1. はじめに

三井 E&S ホールディングスグループは、当社を取り巻く環境の変化や当社自体の変革をふまえ、当社の存在意義を再認識し、このたびグループの経営姿勢と行動規準の見直しを行いました。

#### ■ 企業理念

社会に人に信頼されるものづくり企業であり続けます

#### ■ 経営姿勢

- 新しい価値の創造を顧客と共に実現します
- 健全な財務体質と堅実な利益を追求します
- 健康で安全に働ける環境整備を推進します

#### ■ 行動規準

シンプルで、ユニークで、実用的な製品やサービスに挑戦していきます

### 2. ビジョン(目指す姿)

事業再生計画による体質改善をベースに、事業の集中と協業を明確にし、アライアンスによる市場創出を進めると共に、当社のパワーメカトロニクス<sup>※1</sup>製品のデジタルモジュール化推進に注力し、「全ての機械にデジタル価値を付加する企業」を目指してまいります。

- ビジョン(目指す姿): 全ての機械にデジタル価値を付加する企業に
- 2020中計の基本方針
  - ① 財務体質の改善
  - ② 事業領域の集中と協業
  - ③ 経営基盤の強化

※1: モーターやエンジンも含めた動力機械に電子制御部品、デジタルモジュールを搭載した製品

### 3. 財務体質の改善

2019年から開始した事業再生計画をふまえ、事業規模と人員規模のスリム化により財務体質の更なる改善に努めてまいります。

#### ■ 経営数値目標 (2023年3月期)

	連 結
連結売上高	7,700億円
連結経常利益率	4%
総資産回転率	0.8倍 以上
NET有利子負債 EBITDA 倍率 <sup>※2</sup>	5.0倍 未満

※2: NET有利子負債 EBITDA 倍率=(有利子負債残高-現金及び預金)÷(営業利益+減価償却費+持分法による投資損益)

(裏面につづく)

■ 投資計画(2020～2022年度の3ヶ年合計値(連結))

	連 結
設備投資	4 2 0 億円
事業・研究開発投資	1 4 0 億円
投融資	5 9 0 億円

#### 4. 事業領域の集中と協業

マリン分野で培った基盤技術をもとに、製品のデジタルモジュール化推進に注力すると共に、ストック型ビジネスへの転換を図ります。それ以外の事業はアライアンス戦略により、協業を推進し、市場を創出してまいります。

■ スtock型ビジネスへの転換

機械・システム事業は、売り切り型のフロー型ビジネスだけではなく、デジタルモジュール搭載製品を軸としたサービス(LSS<sup>※3</sup>事業)を展開します。顧客に持続的にサービスを提供しながら長期的に収入を上げていくストック型ビジネスモデルに転換します。

■ アライアンスによる市場の創出

① 造船事業

▶ 商船事業：中小型バルカー市場を牽引

設計開発力の強みを活かしたファブレス事業に注力

▶ 艦艇事業：収益安定化を図り、玉野事業場の労働基盤を強化

② 社会インフラ事業

▶ 協業先との実績・経験・ノウハウの共有により競争力を強化

協業により競争力強化を図ると共に、機械・システム製品の新たな市場創出を視野にビジネスを展開してまいります。

※3:LSS「Lifecycle Solution Service」の略

製品が市場に登場してから退場するまでの間、継続して提供するサービスを指す。

#### 5. 経営基盤の強化

イノベーションとマーケティングをドライブするシンプルな仕組みへの転換により、経営基盤を強化してまいります。

① マネジメントのスタイル：集権的で堅実なスタイルへ

② 組織構造：将来的には組織構造の見直しも視野

③ 経営の仕組み：ROIC等の指標を用いた経営管理、デジタル運営環境の推進

④ 人材：コーポレート人材の充実、高度人材は外部からの積極登用

⑤ 財務：アセットライトへの転換、ROIC・バランスシートを重視

#### 【お問い合わせ先】

株式会社三井 E&S ホールディングス 経営企画部広報室

高岡 電話：03-3544-3147